

一 全社横断プロジェクト

健康経営プロジェクト

プロジェクトの目的

- 健康経営の普及推進

全従事者へ会社が行っている活動を知ってもらい行動に落とし込むことで浸透を図る。

- 健康経営優良法人ブライツ500継続認定

健康経営優良法人ブライツ500を継続認定させ、5年連続の健康経営優良法人・4年連続のブライツ500の認定を目指す。

健康経営とは？

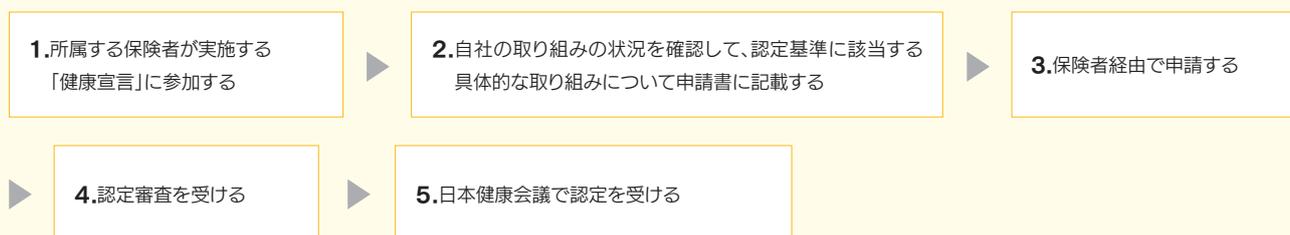
群馬ヤクルトにおける健康経営

1. 従事者の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践すること。
2. 従事者へ健康投資を行うことで、従事者の活力向上や生産性の向上等の組織の活性化をもたらし、結果的に業績向上につながる。
3. 健康から始まる好循環を起こすためにも、健康経営の考えに基づいた具体的な取り組みが必要になる。

健康経営優良法人とは？

健康経営優良法人には、規模の大きい法人を対象とした「大規模法人部門」と、中小規模の法人を対象とした「中小規模法人部門」の2部門があり、群馬ヤクルトは、中小規模法人部門に該当します。

認定までのプロセス



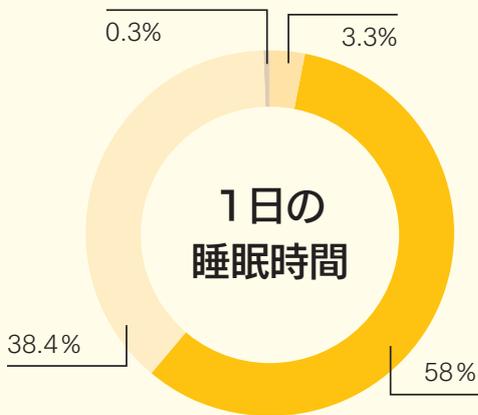
健康経営に対する認識

- お客さまに健康と美を届けるために、まず自分たちが健康でなければならない。
- 従事者全員が健康が大事なのは理解しているが、本当に自身が健康になるためには意識改革が必要。
- 従事者が最大限の能力を発揮するために健康が必要。
- 健康への取り組みが分かりやすく表現できるのが健康経営。
- 年代別の働きかけが必要。
- 健康に対して投資し事業価値を上げないといけない。

健康経営アンケートを実施

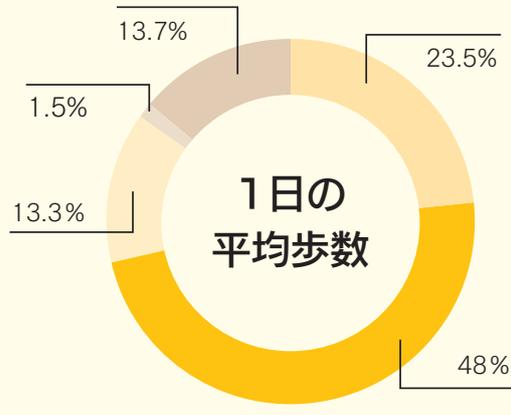
全従事者の健康経営に対する理解と現状、健康度チェック(身体的・精神的)を目的にアンケートを実施しました。

アンケート結果(回答数:758名)



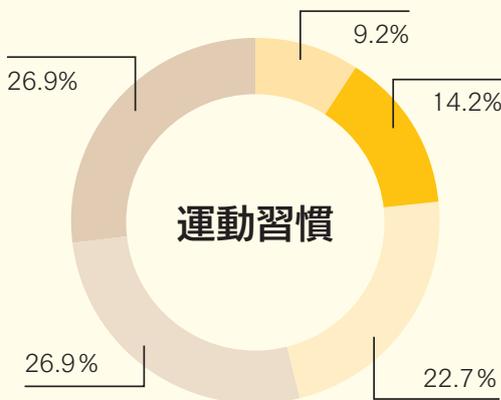
■ 4時間未満 ■ 4～6時間未満 ■ 6～9時間未満 ■ 9時間以上

1日の平均睡眠時間が6時間未満と回答する方が、全体の6割以上と高かった。睡眠に対する正しい知識及び睡眠の質に関して、詳細の確認及び対策が必要。



■ 0～4,000歩 ■ 4,001～7,000歩 ■ 7,001～10,000歩 ■ 10,001歩以上 ■ わからない

通勤手段が車であり、7,000歩未満の方が71.6%と全体的に歩数が少ない。青柳幸利先生の中之条研究のエビデンスからも、メンタルヘルスや生活習慣病予防のためにも、ウォーキングに繋がる風土づくりが必要。



■ 日常的に運動習慣がある ■ 比較的運動習慣がある ■ どちらともいえない ■ やや運動不足である ■ 運動はしていない

やや運動不足、運動不足が53.8%。運動習慣がある方は全体の1/4のため、歩数と同様に、運動習慣の定着に向けたキャンペーンなど生活習慣病リスク軽減対策が必須。

● 今後、会社に取り組んでほしい(イベント等)健康テーマ

質問項目	人数	認知度
研修やセミナー(運動、栄養、睡眠、マインドフルネスなど)	121名	16%
コミュニケーション機会の増進	80名	10.6%
職場の活性化	121名	16%
職場復帰への支援(病休、育休、産休などから)	98名	12.9%
女性特有の健康支援の取り組み	221名	29.2%
労働環境の整備	315名	41.6%
その他	123名	16.2%

女性比率が高いこともあるが、女性特有の健康支援への取り組みや、労働環境の整備を望む声が大いことがわかる結果となりました。今後はこの結果を踏まえ取り組んでいく予定です。

(株)ヤクルト本社企画室との連携

(株)ヤクルト本社企画室及びavivo株式会社様に、健康経営の普及促進と健康経営優良法人認定のサポートをしていただいております。



健康経営の普及

kickake®健康経営の流れ



健康宣言(部門長)



宅配サービス部
部門長
柳川育廣

お客さまへ健康と美をお届けすることが私たちの使命です。そのためには、従事者とその家族の心身の健康を維持増進することが重要です。健康は、すぐに手に入られるものではありません。お客さまへの価値普及と一緒に、日々の積み重ねが健康への一番の近道です。宅配サービス部は、一人ひとりの幸せのために「小さなことからコツコツと健康維持増進」を会社全体でサポートすることを宣言します。「健康は1日にして成らず！コツコツ健康生活始めます！」



総務部 部門長
町田篤

部員一人ひとりが健康であることが私たちの幸せです。そして、全従事者、地域の皆さまに健康の輪を広げることが私たちの喜びです。



直販サービス部
部門長
金井良和

継続はチカラなり！心と体の健康二刀流



取締役
未来価値創造部
部門長
吉原篤

からだ健やかに、心晴れやかに。今日もいきいき！



取締役
財務部 部門長
狩野麻紀

心と身体の健康こそ仕事のエネルギー源



人材開発部 部門長
竹垣咲紀

「元気があれば何でもできる！」心身整えいつでも全力で！



広報部 部門長
大山賢司

毎日30分運動習慣で健康生活



DX推進部 部門長
大塚智義

3つの取り組み「食事・運動・睡眠」で健康生活

一 全社横断プロジェクト

女性活躍支援

～さくらMINTプロジェクト～始動

今年度、10月より女性活躍支援を目的としたプロジェクトを発足いたしました。女性が働き続けたいと思える環境実現に向けて、女性による女性のためのプロジェクト、題して「さくらMINTプロジェクト」です。

プロジェクトの目的

女性従事者が、それぞれのライフステージで抱える悩みや課題を抽出し、仕事を続けられる環境を作っていく。

取組対象

当社に従事している全ての女性

854

人(全従事者の9割が女性)

※2023年10月時点

プロジェクト名の由来

- さ** 「Sustainable 持続可能な」
- く** 「Create 創造」
- ら** 「Life 生活」
- M** 「Ms. 全ての女性」
- I** 「innovation 変化をもたらす取組み」
- N** 「new, neo 新しい 形を変えて」
- T** 「tomorrow 明日、将来」

発足のきっかけ

健康経営優良法人プライト500の認定審査項目に、新たに女性特有の健康関連課題に対する取組みやプロジェクトの設置など15項目が追加されたことです。全従事者の9割が女性の当社は、女性に焦点を当てたプロジェクト発足の必要性を感じました。

女性の就業率増加と企業が取り組むべき課題

日本の女性（15～64歳）の就業率

58.1

 % (2005年) →

71.3

 % (2021年)

がん治療中の労働者

44.8

万人

(2019年厚生労働省調査) ※うち女性が約6割

不妊治療と仕事を両立できなかった人の割合

35

%

※不妊治療をしたことがある(予定している)労働者の回答

女性の就業率増加に伴い、不妊治療など治療をしながら働く女性も増加しました。しかし、現実には両立ができずに退職を余儀なくされた人も多いのです。

活動内容

現状を把握、女性の心の声を拾うため、聴き取りアンケートを実施。アンケートの分析後は、課題解決に向けて、制度構築に留まらず、風土や意識改革にも踏み込む必要があると感じています。知っていただくことで価値観の違いを埋めていけたらとも思っています。

聴き取りアンケートの実施

- 期間** 2023年12月下旬～2024年1月末日
- 対象** 全女性従事者
- 方法** キントーン(個人の特定は一切しない)
- 内容** 健康に関する悩み・健康以外の悩み・ずっと働き続けたい会社であるか

一 全社横断プロジェクト

スクール連携プロジェクト Season2

活動テーマ

教育機関とさまざまな連携(スクール連携)・協力の可能性を探り、当社独自の取組みを思案、企画検討し、教育機関+地域と連携していく事業を作り上げていく。



プロジェクトの目的

共助社会の担い手になる

【教育機関を基点とした新たなつながりづくり】

活動目標

2024年高崎市立新町中学校学校運営協議会(コミュニティ・スクール)委員として活動

プロジェクトのビジョン

教員と共に学校健康経営に取り組み、子どもたちの健やかな成長をサポートする

今期プロジェクトの取組み内容



今期実施検証した取組み

高崎市立新町中学校への取組み

●キャリア教育支援



●部活動支援



●健康教育 保健チーム



●健康教育 家庭科チーム



●ひまわりプロジェクト



新町中学校では、主体的で責任ある行動をとることができる生徒の育成(=ウェルビーイングな共生社会の担い手となる生徒の育成)を目指しています。そのためには、地域社会との協働による教育活動の実践(開かれた教育課程やコミュニティ・スクール)が必要と考えています。さらに、地域社会との連携・協働は、民間企業の連携も大切な要素であると考え、令和3年度より2年間、群馬ヤクルト販売株式会社様との連携による教育活動を推進してきました。具体的には、健康教育・キャリア教育・部活動支援・生徒会専門委員会支援などに及んでいます。専門的な内容や民間企業だからこそできる連携で、大きな成果につながっています。来年度は、学校運営協議会(コミュニティ・スクール)にも参画していただき、今までの活動の継続だけでなく、新たな連携・協働を創造しながら、「地域と民間企業と学校による、地域の子どもの健全育成」を発展させていきたいと考えています。



高崎市立新町中学校
校長
上原裕道 様

次年度に向けて

学校運営協議会委員として、学校及び地域と連携し、生徒の健やかな成長のサポート・支援を行う

重点項目

1. 学校健康経営の実践

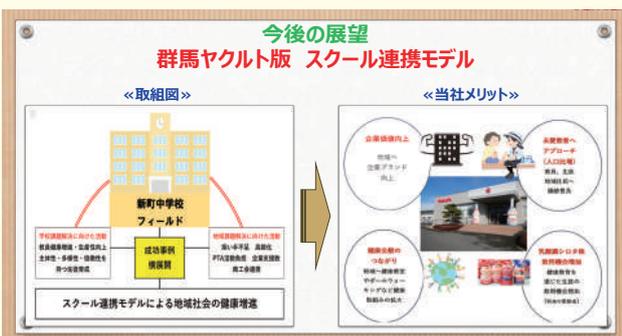
対象 管理職 教務(3役)
学校健康経営推進チーム始動

健康経営エキスパートアドバイザーと健康経営の考え方(企業取組等)を共有し、学校内における推進方法を検討し、進めていく

2. 健康教育の推進

テーマ 中学1年生の健康づくり
「腸活」「睡眠」「食生活・運動」

対象 新中学1年生3クラス
年間3回(各学期1回1限)
*GUESTティーチャーとして授業に関わる



群馬ヤクルト版スクール連携モデル

高崎市立新町中学をフィールドに取組みを実施し、成功事例を他校へ横展開していき、学校を基点とした地域社会健康増進へ取り組む

一 全社横断プロジェクト

ヤクルト子ども食堂プロジェクト

活動テーマ

共助社会の担い手になるというビジョンのもと、地域社会の課題解決の取組みとして、2021年度より子ども食堂「GENKI★食堂」を運営しています。2023年度はプロジェクトチームを結成し、子ども食堂「GENKI★食堂」のさらなる可能性を検証していきます！



プロジェクトの目的

1. 子ども食堂の継続的運営を可能にする
2. 子ども食堂の今後の可能性を見出す

活動目標

1. 継続的な運営
2. 「繋がり」の拡大

GENKI★食堂開催

季節に応じたイベントや食育を通じて、家族以外の人と同じ空間を共有できる場を作っています。

実施回数

参加人数・参加世帯

11回

419名 123世帯



学生ボランティアが毎回参加



第一生命保険 齋藤様（一番左）のご協力

利用者の声



子どもも私もお友だちがたくさんできて嬉しいです。地域のことや小学校のこと等、色々聞くことができ、ありがとうございます。お母さんたちとの情報交換もでき、みんなが繋がる大事な場となっています。

GENKI★食堂オリジナルカトラリー & Tシャツ作成

GENKI★食堂では、オリジナルカトラリーを来場するお子さまに配布し、プラスチックゴミ削減を図り、環境問題に取り組んでいます。また、オリジナルTシャツでチームの一体感を高めました。



ヤクルトWEBサイト「サステナビリティ」ページで紹介中

今期プロジェクトの取組み内容

出張食育教室

地域の子ども食堂にて、子どもたちが「食と健康」について学べる、出張食育教室を開催しています。子どもたちに毎日元気に過ごしてもらうために「食事」や「お通じ」をテーマに、紙芝居や模型を使って楽しく参加できる内容となっています。この活動を通して子どもたちの健康と、地域の子ども食堂との繋がりを築いています。



出張 GENKI 食堂

自治会の課題解決、地域の活性化を図るために、自治会と協力して出張GENKI食堂を実施しています。自治会行事に参加し、高齢者や子どもたちにカレーライスやけんちん汁などを提供しました。地域の仲間と一緒に食事をとることで、食べる喜びや地域の帰属意識の向上に繋がりました。



子ども食堂におけるサーキュラーエコノミー

SDGsの取り組みの一環として、食品ロス削減のため、富士見サービスセンターと食材循環の仕組みづくりに取り組んでいます。ヤクルトスタッフがお客さまから頂いた農作物を、財務部業務課の配送で本店へ回収し、子ども食堂で活用しています。



子ども食堂フェスタ～まえばし～

前橋市内の子ども食堂と企業が力を合わせて開催しました。子ども食堂の周知と、企業と子ども食堂のマッチングが目的で、前橋名物tonton汁などを提供したり、元NHKうたのおねえさんのつのだりょうこさんのコンサートなどで来場者をおもてなしました。



当日来場者
716名



子ども食堂応援自動販売機

自動販売機のラッピングとパネルの設置を企画しました。子ども食堂の会場となるサービスセンターに設置予定です。利用者や地域の皆さまに、子ども食堂を運営していることを認知していただくとともに、「自動販売機の利用が社会貢献につながる」という認識を持っていただくことを目的としています。



活動のまとめ

多くの学生ボランティアやプロジェクトメンバーの参加により、継続的な運営を図ることができました。また、上記の取組みを通じ、地域との繋がりを拡大することができました。